

# 安全性向上に向けたATENAの活動 ～現状と課題～ (パネルディスカッション議論用)

2021年2月18日  
原子力エネルギー協議会  
(ATENA: Atomic Energy Association)

# 本日のパネルディスカッションで議論したいこと

- ATENAの活動も3年目に入り、一昨年からは規制対応を含めて様々な課題に対応してきている中、円滑に進んでいる事例もあれば、さらなる改善が必要な事例も出てきている。
- そこで、今日のディスカッションでは、次の2点をテーマに議論して頂くことを提案したい。

**① ATENAが本来果たすべき役割について  
(規制当局の期待と現状を踏まえて)**

**② 産業界との連携、ならびに社会からの信頼について**

## 【 現 状 と 課 題 】

- 経年劣化管理の取り組みでは、「実務レベルの技術的意見交換会」という新しい枠組みでの対話の実現し、規制当局と認識共有を図ることができた事例がある。
- 一方、規制委員会や公開会合の場でATENAに対する不満の声も聴かれる。
  - ・ 規制当局の了解を求めようとする（自律性の不足？）
  - ・ 公開会合で建設的な意見が出ない（事業者意見の単なる集約？）

⇒ ATENAは、本来果たすべき役割を十分に果たせていない  
（規制当局の期待や信頼に応えられているか？）

## 【 論 点 】

- ① ATENAの取り組み、姿勢、組織などの改善すべき点とは
- ② 規制当局とのコミュニケーションの在り方とは

## 【 現 状 と 課 題 】

- ATENAは、JANSI、NRRC、メーカなどとの連携を図りながら活動を進めてきたが、規制対応を含めて課題が広範囲となり、対応プロセス全体を効率的に進める体制が十分に構築されていない。

⇒ ATENAの体制や産業界のさらなる連携について改善が必要

- 原子力発電所の再稼働が一部進んでいるが、依然として世論の声は厳しい。
- ATENAの活動状況は、HP公開が主体で認知度が低い。

⇒ 産業界の安全性向上の取り組みが社会に伝わっていない

## 【 論 点 】

- ① ATENAの活動を一層効果的に推進する体制と産業界の連携はどうあるべきか
- ② 社会に理解され信頼されるための取り組みとは

# 参考 新検査制度への対応（業界連携の成功事例）

- ・新検査制度への対応については、原子力事業者自らが意識改革と基盤整備を進め、それを産業界組織が支援する枠組みで総力をあげて準備してきた。
- ・制度定着を図るため産業界の連携が緊密に行われており、業界連携の成功事例と言える。

